



◆ 主な活動と空き状況

入浴 火× 金× 土×

| 【第1】 | | 【第2】 | |
|------|---------------|------|------------|
| 月 | × 歌唱指導 | 月 | × アート制作 |
| 火 | × 手芸 (押絵) | 火 | × 手芸 (押絵) |
| 水 | × 転倒予防体操 ゲーム | 水 | × 手芸 (押絵) |
| 木 | ○ 習字 | 木 | × 習字 |
| 金 | × ペットセラピー 生演奏 | 金 | × アウトドア |
| 土 | × レク パステルアート | 土 | × レク アウトドア |

※○は空きがあります。満員であっても、ご見学・ご予約をお願いします。

「テレビで見たことがあるけど、目の前で見たのは初めて」「びっくりした」「不思議！」と、目の前で繰り広げられる手品に皆様感激されました。以前度々披露して下さった、男女ペアの手品ボランティアの方による、約2年ぶりの再演でした。男性は70歳から、女性は66歳から手品を勉強されたそうですが、見事な手さばき。驚きや、「ウワー」という感動が脳を刺激し、心身ともに良い影響があります。手品は最高のサプリです。


 デイサービス
ももたろう
 東京都府中市矢崎町 2-3-5
 TEL 042-366-5248
 FAX 042-366-5239
 WEB <http://mtaro.jp>
 事業者番号:1373801685

『灯りを、つくる』

生まれは、東京・恵比寿。当時の自宅は恵比寿通りにあり、父親が電気ランプの傘を作る工場を経営し、従業員も何名か出入りしていた。私達家族は工場の2階を住居にして生活していた。戦争が始まると、ランプ傘では生活できず、父は軍需関連の仕事をした。工場を転用し、火薬を入れる筒を作っていたが、戦争が終わると、またランプの傘を作る仕事を始めた。

私が二十代の頃だと思う。あるドイツ人が恵比寿の工場を訪れ、「電気ランプの傘を作って欲しい」と言った。どのような傘が良いのか解らず、姉と私とドイツ語の通訳の3人で、ドイツのベルリンに行くことになった。日本はまだ戦争の痕跡が多く残っていた時代だが、当時のドイツは道路も広くて綺麗だった。ビルばかりの建物群も素晴らしく、見るのも聞くのも驚くことばかり。ドイツのランプ工場も、天井が高く、大小様々な傘を作っていた。フロアスタンド型のランプで、ホテルのロビーや客室に使われるという、豪華な物だった。10日間位滞在し、日本に帰国。その後はドイツの生地を使った傘も作るようになり、ナショナルや東芝、日立にも卸し、よく売れた。私の仕事は、裁断やミシン縫いの他、会社全般の仕事をしていた。女性の従業員も10名位雇い、この頃には和裁・洋裁・編み物と、大概のものは自分で何でも作れるようになっていた。

主人とは34歳の時に結婚。友人の同僚で、事務の仕事をしていた9歳年上の男性だ。しばらく仕事を手伝ってくれていたが、時代のあおりを受け、会社は倒産した。その後主人は洋菓子屋に就職し、私は馬込にある母の実家で、姉と二人で傘の布地を裁断したり、縫製する仕事をした。

子供がいなかったので、主人とは二人だけでよく外国旅行に行った。ドイツ・フランス・スペイン・ソ連・中国・台湾。主人は、フランスに行くなら『フランス語』の学校に行って勉強し、スペインに行くなら『スペイン語』の学校に行き、必ずその国の言葉を習得して行った。私は主人に付いて行くだけで楽なものだった。主人は背が高く、私は小さい。歳の差もあり、外国では親子と見られていたかもしれない。二人並んで歩いたフランスは、きれいな街並みが大好きだった。ソ連は、駅のエスカレータの長さにびっくりした。地下深くにあるプラットホームには、大きくて豪華な、それは素晴らしいシャンデリアが下がっていた。主人との思い出は、何と言っても2人で世界中を旅行したこと。私の人生を一言で表すと、「楽しい人生だった」。

その主人は、昨年8月4日から何も食べなくなり、入院後一時帰宅したが、9月4日に亡くなった。94歳だった。優しい人で、9歳の歳の差を感じたことは無かった。入院するまで、毎朝5時30分に起きては、朝日が昇る多摩川の土手を、ゆっくりと一緒に散歩していた。

主人が亡くなって早1年が経つ。横浜に8つ下の妹がおり、週4日位2時間掛けて通って来てくれているが、それでも寂しい。もう、長く生きたくないのが本心。今一番の楽しみは、明るい方々が集まる“ももたろう”に行くこと。皆に「長く生きたくない」と打ち明けると、「ダメ。生きなくては！」とか「生きる権利があるのよ」と、力強く言われる。私には趣味の手芸がある。私もここで、趣味を楽しみながら、皆さんと力強く「生きていこう」と思います。